

「ぎょしゃ座(2)」

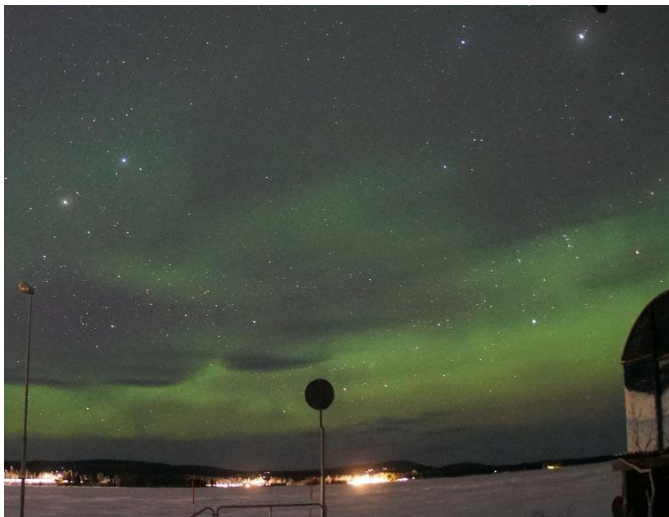
お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka



ぎょしゃ座の星座絵を見ると、カペラの下に3つの星(三角形)のところに、ヤギが描かれている。星図によっては、星1つをヤギ1匹として、3匹のヤギをいっぺんに抱いている絵になっている。このヤギはぎょしゃ(御者)とどんな関係があるのだろうか？



ぎょしゃ座は、赤緯(天の北極からの視角度と同値)が比較的高いので、北極圏でもよく見られる。私が仲間とオーロラ遠隔観測をしている、スウェーデン北部でもよく写真に写る。上の写真はぎょしゃ座(右上)とふたご座(左下)である。ここは北緯63度なので、赤緯が27°以上の恒星は「周極星」となる。ぎょしゃ座もこのあたりでは周極星で、白夜の時期以外は、常に星空のどこかに見えている。



ぎょしゃ座が北の地平線に近い、1月～3月の明け方には、オーロラとぎょしゃ座が重なって写ることもある。美しい光景だと思う。



北軽井沢でオーロラが見えるのは稀だが、星空は美しい。この日は、西の地平線に沈むぎょしゃ座と火星を観望することができた。